

国語科学習指導案

日 時 平成22年5月21日（金） 1校時

対 象 3年1組（男子19名 女子20名 計39名）

指導者 教 諭 林 涼 子

1 単元名 スピーチで高めよう、話す力・聞く力

2 単元設定の理由

(1) 教育的意義

現代は情報機器の多様化や核家族化、少子化などの影響から、年齢や性別、生活環境等の異なる様々な人と直接、会話や対話をしたり討議・討論をしたりする機会が少なくなっている。そのため、本来、会話や対話、討議・討論等を繰り返すことによって高まるはずの、自分の思いや考えが相手により効果的に伝わるように言葉を駆使して話そうとする態度が育ちにくくなってきている。また、相手の意図や思いを汲み取るために、相手の気持ちに寄り添いながら話を聞こうとする態度も育ちにくくなってきている。さらに、相手の声の調子や表情からその場の雰囲気や相手の気持ちを察することができない人も増えてきている。

このような状況は中学生も例外ではなく、話の要点をとらえながら聞いたり、相手の思いや考えを汲み取りながら聞いたりすることを苦手とする生徒が増えてきている。また、自分の思いや考えが相手に確かに伝わるように言葉を駆使して話すことを苦手とする生徒も増えてきている。

そこで、聞き取った内容や表現の仕方を評価する活動を通して、ものの見方や考え方を深め、自分の表現に生かそうとしたり、相手の様子や場の状況に応じて言葉の使い方や資料の活用の仕方等を工夫して話そうとしたりする態度を高めたいと考えて本単元を設定した。

具体的には、まず、講話を聞き、要点をとらえたり、自分なりの意見や感想をもったりする活動を通して、「評価しながら聞くための方法」を習得させたい。次に、時間や場の条件に合わせてスピーチを行う活動を通して、「場の状況や相手の様子に応じて話す力」を高めたい。

このような学習を通して生徒は、相手の思いや考えを確かに聞き取る力や、自分の思いや考えを効果的に表現する力を高めることができるものとする。さらに、相手の思いや考えを尊重しながら、建設的に対話や討議・討論を行う力を高めたり、言葉を大切に、より適切に使おうとする態度を高めたりすることができるものとする。

(2) 社会的意義

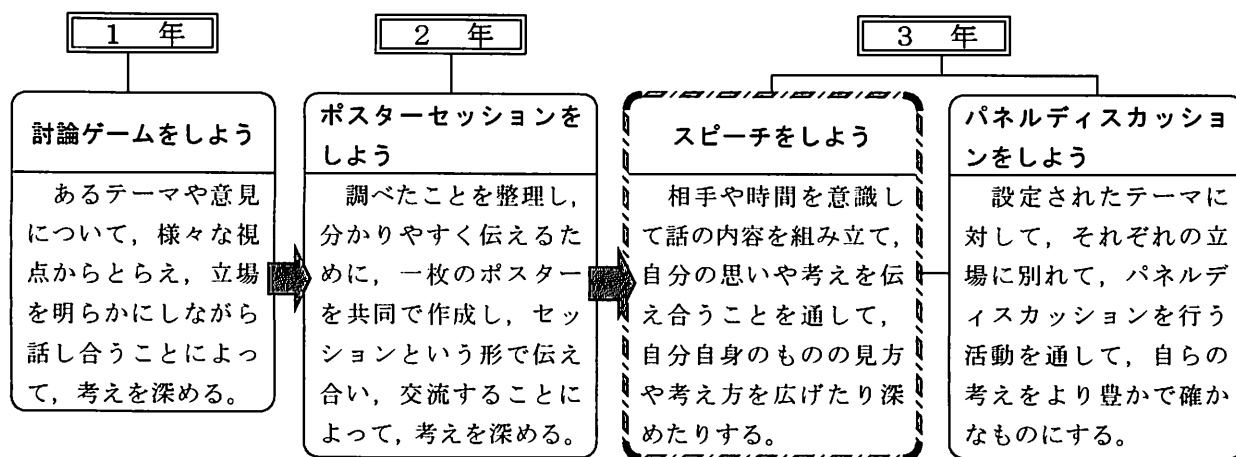
情報機器の多様化などにより容易に情報の交換ができるようになった現代社会では、多様な人とコミュニケーションをとる力が求められている。また、討論やポスターセッション、プレゼンテーションなど、様々な形態や機器を駆使して意志を伝達する機会も多くなってきている。そのため、自分の思いや考えを相手や場に応じて効果的に伝える力が必要とされている。

一方で情報がめまぐるしく変化する社会にあつて、じっくり相手の話を聞いたり、自分の思いや考えを相手が理解してくれるまで根気よく伝えようと努力したりする機会が少なくなっている。そのため、要点を確かに聞き取る力、論理的に話す力の低下が顕著になってきている。

このような社会にあつて、相手の話を、「話の内容（テーマや話題、話者の思いやものの見方・考え方等）」と「表現の仕方（話の構成や展開、根拠や事例の示し方、言葉の使い方、話す速度や音量、間の取り方等）」の両面から評価、つまり吟味・検証しながら聞く学習をさせることは、生徒に何をどう伝えることが効果的なかを学ばせる上で有意義である。また、聞くことを通して学んだ、話題の選び方や話の展開の仕方、根拠や例示の示し方などを生かしてスピーチをさせることによって、生徒たちは、より効果的に話すための内容や表現の仕方を理解するとともに、目的や相手、場に応じて話をしようとする態度を高めることができるものとする。

(3) 連関的意義

本単元は、ねらいと教材・学習活動の構成の系統とにおいて以下のような関連をもつ。



3 単元の目標及び評価規準

【単元の目標】

- (1) 学習に進んで取り組み、積極的に話の内容や表現の仕方のよさを聞き取ろうとしたり、そのよさを自分の表現に生かして効果的に話そうとしたりすることができる。(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 話の内容や表現の仕方の特徴や効果等をとらえながら講話を聞き、その内容や表現の仕方について吟味・検証することによって、自分なりの意見や感想をもつとともに、自分のものの見方や考え方を深めることができる。(聞く能力)
- (3) 講話の内容や表現の仕方について、根拠を明確にしながらか要約文を書くことができる。(書く能力)
- (4) 限られた時間内で、自分の伝えたいことをより効果的に話すために話の内容や表現の仕方を吟味するとともに、場の状況や相手の様子に応じて話すことができる。(話す能力)

具体的には次に掲げる内容を重点的に指導する。

評価の観点	評価規準	学習指導要領との関連
国語への関心・意欲・態度	① 講話を聞きながら、進んでメモを取り、話の内容や表現の仕方を理解しようとしている。 ② メモを基にしながら話の内容や表現の仕方について進んで吟味・検証し、そのよさや効果について自分なりの考えをまとめようとしている。 ③ 伝えたいことが相手に効果的に伝わるように、進んで話題を吟味し、話の構成や展開、言葉の使い方等を工夫しようとしている。	
書く能力	④ メモを取りながら講話を聞き、その内容や表現の仕方について、自分なりの意見や考えをもつとともに、相手に分かりやすいように根拠を明確にしながらか要約文を書いている。	キ 記述に関すること

評価の観点	評 価 規 準	学習指導要領との関連
話す・聞く能力	⑤ 話の内容や表現の仕方の特徴や効果等を捉え、構造化の手法を生かしてメモをとりながら、講話を聞いている。 ⑥ メモを基に、聞き取ったことを吟味・検証し、内容や表現の仕方について、自分なりの意見や考えを明確にしている。 ⑦ 伝えたいことが相手に効果的に伝わるように、進んで話題を吟味し、話の構成や展開、言葉の使い方等を工夫し、場の状況や相手の様子、時間等を考慮しながら分かりやすく話している。	ウ 聞くこと イ 話すこと

4 単元の指導計画

(1) 単元設定の視点

ア 生徒の実態から

本学級は、「話すこと・聞くこと」の学習において、次のような実態が見られる。

- ・ ペアやグループでの話し合いの際には、自分の意見を積極的に述べるが、全体の間では自分の意見や考えに自信がもてないことから消極的になり、発表ができない生徒が多い。
- ・ 自由に自分の意見や考えを述べる際には、のびのびと発言できるが、一定の方向に向かって話し合いを進めたり、まとめたり、よりよい形に発展させたりするための話し合いを不得意とする生徒がいる。
- ・ あらかじめテーマが与えられ、話す材料等を集めた上で討論やスピーチをすることはできるが、これまでの経験等を生かしてその場で話をする際にとまどう生徒が多い。
- ・ 相手の話の要点は何となくつかむことができるが、表現の仕方の工夫まで聞き取り、自分なりに評価するまでには至っていない。また、話の要点を要領よくメモをする力が高まっていない生徒が多い。

このような実態から、指導に当たっては、相手の話をメモをとりながら聞き取る方法を習得させ、そのメモを基にしながらか話の内容や表現の仕方を吟味・検証させていくことにする。さらに、吟味・検証して分かったことを、自分が話す内容や表現の仕方に生かす場を設定し、学んだことを自分の表現に生かすことによって、聞く力や話す力が高まることを実感させるようにしたい。

イ 指導上の手立て（本校の研究内容との関連から）

① 「構造化」による吟味・検証力の育成

人の話を聞くという行為は一回限りのものである。録音している場合は別だが、通常は後になって話の内容や表現の仕方を再現することはできない。だからこそ、常に「話し手は、何を、どのような表現の仕方であらうとしているのか」という問題意識をもちながら聞くことが大切である。また、再現できないものだからこそ、聞きながら効率よくメモをとることが重要になってくる。さらに、新しい知識を得たり、より効果的な表現の仕方について理解を深めたりするためには、相手の話を吟味・検証しながら聞き、話の内容や表現の仕方の特徴や効果等について理解を深めたり自分のものの見方や考え方を深めたりすることが大切である。

そこで、本単元では、初めに、聞き方を習得するための活動を設定し、相手の話の内容や表現の仕方を効率よくメモをとりながら聞き取る技能を身に付けさせることにした。

具体的には、ただ話の流れにそってメモをとらせるのではなく、話の展開や構成、並列や対比、具体化や統合といった文と文や段落と段落の関係をとらえながら聞き取らせ、それを矢印やその他の記号を用いて構造化しながらメモをとらせることにした。その際に、接続詞等に注意したり意見と事実を聞き分けたりするなど、聞き方のポイントにも気付かせるようにした。

② 「ことばの力」の共有化の工夫

構造化の手法を生かしてメモをとる過程で、自分が聞き取った内容や表現の仕方について吟味・検証した結果を、よりよい形で自分の表現に役立てることができるようにするために、話の内容や表現の仕方についての個々の意見や感想を、要約文を書くという形で表出させることにした。その際に、学級を二つの集団に分け、それぞれ別の談話を聞かせることにした。そして、同じ談話を聞いた者同士による交流の場と異なる談話を聞いた者同士による交流の場を設定することにした。同じ談話を聞いた者同士による交流の場は、互いの要約文等を比較し合い、それぞれの類似点や相違点について話し合うことを通して、自分のものの見方や考え方を深めさせるための場である。また、異なる談話を聞いた者同士による交流の場は、それぞれが聞き取ったことや、意見や感想を伝えさせ、互いに理解することができたかどうかを確認させることによって、自分の聞き取り方を振り返らせるための場である。

加えて、共有化することによって深めた表現の仕方に関する工夫点や留意点、ものの見方や考え方を生かして、話題や構成や展開、言葉の使い方等を吟味・検証し、時間や場、相手等を意識しながらスピーチをする活動を行わせ、習得したことが活用できたという実感を味わうことができるようにした。

(2) 単元の指導計画（全7時間）

単元	主な学習活動	時間	指導に当たっての手だて	評価
スピーチで高めよう！話す力・聞く力	聞き取り方を学ぼう	導入	1 単元を概観し、学習目標・学習活動を確認する。	評価規準①⑤ (観察・ワークシート)
		展開	2 「講話A」を基に、話を聞きながら効率よく、分かりやすくメモをとる方法を理解する。	
	終末	3 「講話B」と「講話C」をメモをとりながら聞き、内容や表現の仕方を吟味・検証する。 4 メモを基に要約文を書き、それを基にそれぞれの講話のよい点について話し合う。	1 (本時)	評価規準②④⑤⑥ (観察・ワークシート・批評文)
スピーチに挑戦！	導入	1	・ 構成表を作らせることによって、テーマや話の材料を明確にさせる。	評価規準③⑦ (観察・ワークシート)
	展開	1	・ 草稿には、話の内容や展開、大事にしたい語句や文などを書かせ、それらをつなぎ合わせながらスピーチをさせるようにする。	
		2	・ グループ内でスピーチをさせ、メモをとりながら聞かせることによって、互いの話の内容や表現の仕方を評価させ、より効果的な内容や表現の仕方について理解を深めさせる。 ・ 各グループから代表者を一人選出し、全体の場でスピーチをさせる。	
	終末	4	1	

5 本時の指導（2/7）

(1) 指導目標

講話を聞きながら構造化の手法を生かしてメモをとり、要点をまとめたり、自分が聞いた講話の良さを他者に伝えたりする活動を通して、「話すこと・聞くこと」に関する吟味・検証力を高めるとともに、自分なりの意見や感想をもち、ものの見方や考え方を深めることができるようにする。

具体的には、評価規準⑤及び⑥に即して、次の「話すこと・聞くこと」に関する能力の育成を目指す。

十分達成されている	話の内容や表現の仕方の特徴や効果等をとらえ、構造化の手法を生かして、文と文や段落と段落の関係等まで分かるようにメモをとりながら講話を聞いている。また、メモを基に、聞き取ったことを吟味・検証し、話の内容や表現の仕方について、その適否や効果等を根拠を明確にしながらか指摘するとともに、よりよい聞き方についての自分なりの意見や考えを深めている。
おおむね達成されている	話の内容や表現の仕方の特徴や効果等をとらえ、構造化の手法を生かしてメモをとりながら講話を聞いている。また、メモを基に、聞き取ったことを吟味・検証し、話の内容や表現の仕方、話の聞き方について、自分なりの意見や考えを明確にしている。
達成していない生徒への手だて	<ul style="list-style-type: none"> 書き出しの言葉や接続詞を手がかりに内容の大意や構成をつかむように助言する。 構造化の手法を生かしてメモをとる際の観点を確認させ、その観点到添って、自分なりに評価させる。

(2) 目標行動（G）

学習課題に対する答えを、例えば次のように発表することができる。

- 話し手が何を訴えたいのかという点に注意しながら聞き、要点や要旨をしっかりとらえる。
- 話の中で大切な役割を果たしている言葉についてはその意味や効果もとらえる。
- 接続詞や書き出しの言葉等に注意しながら聞き、文と文や段落と段落の関係までとらえる。
- 意見や考えと具体例（事実）との使い分け、具体例の効果等に着目する。

(3) 下位目標行動

① 構造化の手法を生かしてメモをとることの良さを例えば次のように発表することができる。

- 意見や考えと具体例を聞き分けることができ、話の内容を正確に理解することができる。
- 文と文や段落と段落の関係をとらえることができ、話の構成を理解することができる。
- 矢印や囲み等を活用することによって、話の内容や構成を視覚的にとらえることができ、話の全体像をつかむことができる。

② 講話の原稿を読んで自分なりに理解したことで、友達のメモを比較し、メモの適否について指摘することができる。

③ 大事だと思う言葉に線を引きながら相手の講話の原稿を読み、その講話の内容や表の仕方の良い点を自分なりにとらえることができる。

④ メモを基に、違う講話を聞いた者同士で互いの講話の内容や表現の仕方の良い点をえ合うことができる。

⑤ 同じ講話を聞いた者同士で、メモや要点をまとめたものを比較し合い、それらの適について指摘し合うことができる。

⑥ メモを基に、講話の内容や表現の仕方の良い点を簡潔にまとめることができる。

⑦ 二回目の講話を聞きながら、自分のメモを見直し、より分かりやすく修正することができる。

⑧ 講話を聞きながら、構造化の手法を生かしてメモをとることができる。

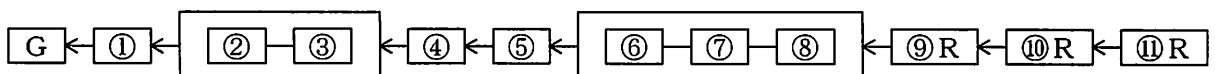
⑨R 本時の学習課題を「講話の内容や表現の仕方の良い点を正確に聞き取るためにはどのようなことに注意すれば良いのだろうか。」であると確認することができる。

⑩R 本時の学習目標を「友達に、自分が聞いた講話の内容や表現の仕方の良い点を伝よう。」であると確認することができる。

⑪R 構造化の手法を生かしてメモをとる際の観点として、例えば次のような点を確認することができる。

- キーワードを押さえる。
- 短い言葉で簡潔に書く。
- 接続詞や書き出しの言葉を大切ににする。
- 大事な言葉や要旨が目立つように工夫する。
- 矢印を活用して話の流れが分かるようにする。

(4) 目標関連図



(5) 本時の実際

時間	学 習 過 程	指 導 ・ 援 助 の 留 意 点	研究との関連
	スタート	<導 入> ・ ワークシート等を基に前時の学習を想起させ、構造図の手法を生かしたメモのとり方を確認させる。	<p>① 「構造化」による吟味・検証力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講話を聞きながら話の内容や展開等が分かるようにメモをとらせることを通して、相手の話を吟味・検証しながら聞くという態度を育てる。 ・ 構造化の手法を生かしながらメモをとらせることによって、相手の話を吟味・検証しながら聞き取るための観点を理解させる。 ・ 互いのメモについてその適否を吟味・検証させることによって、聞きとり方やメモのとり方についての理解を深めさせる。 <p>② 「ことばの力」の共有化の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ講話を聞いた者同士や違う講話を聞いた者同士で意見や感想を交流させることによって、自分の聞き取り方やメモのとり方を見直させるとともに、ものの見方や考え方を深めさせる。 ・ 交流を通して自分の意見や考えを相手に的確に伝えるための留意点を理解させる。
3'	メモのとり方を確認する。 1 (11R)	・ 自分が聞いた講話の内容や表現の仕方の良い点を友達に伝えることを目的とした学習であることを知らせ、より確かに聞こうとする意欲を高める。 ・ 学習目標と学習課題を確認させる。	
2'	本時の学習目標と学習課題を確認する。 2 (10R, 9R)	<学習目標> 友達に、自分が聞いた講話の内容や表現の仕方の良い点を伝えよう。 <学習課題> 講話の内容や表現の仕方の良い点を正確に聞き取るためには、どのようなことに注意すれば良いのだろうか。	
12'	講話を聞きながらメモをとり、要点をまとめる。 3 (8, 7, 6)	<展 開> ・ 自分が聞き取ったことを友達に伝えるという目的意識をもたせるために、学級を二つに分け、それぞれ別の講話を聞かせる。 ・ 接続詞や書き出しの言葉に着目させ、順接か逆接か、具体例か意見かなどが分かるようにメモをとらせる。 ・ 講話は二回聞かせ、二回目は自分のメモを見直し、修正しながら聞かせる。 ・ 表現の仕方の良い点を明確にさせるために、自分なりに良いと思った点を簡潔にまとめさせる。	
	メモをとり、要点をまとめることができたか。 4 No 補説 Yes	<達成していない生徒への手だて> ・ メモがとれていない生徒には、構造化の手法を生かしたメモの取り方を確認させ、再度講話を聞かせる。	
5'	同じ講話を聞いた友達とメモのとり方等について話し合う。 5 (5)	<達成している生徒への手だて> ・ 矢印や囲みなどが効果的に活用できているかどうか見直させ、修正させる。 ・ 同じ講話を聞いた者同士で、互いのメモを吟味・検証させることによって、より良いメモのとり方に気付かせる。	
10'	違う講話を聞いた友達に自分が聞いた講話の良い点を伝える。 6 (4)	・ 違う講話を聞いた者同士で、互いの講話の内容や表現の仕方の良い点を伝え合わせることによって、講話の内容や表現の仕方についての理解を深めさせる。 ・ よく分からなかったところを質問し合わせることによって、講話の聞き方を振り返らせる。	
10'	講話の原稿を基に互いのメモの適否等について話し合う。 7 (3, 2)	・ 相手が聞き取ったり伝えたりしたことの適否を判断させるために、相手が聞いた講話の原稿を読ませ、重要だと思う語句に線を引かせる。 ・ 互いの講話の原稿とメモを比較し合わせ、講話の聞き方やメモのとり方について互いに吟味・検証し合わせる。	
	話し合うことができたか。 8	<達成していない生徒への手だて> ・ 原稿とメモの接続詞や書き出しの言葉が一致しているか、具体例がメモに簡潔に書かれているか等を確認させる。 <達成している生徒への手だて> ・ より良いメモのとり方についてまとめさせる。	
8'	学習のまとめをする。 9 (1, G)	<終 末> ・ 構造化の手法を生かしながらメモをとることによって、話をより正確に聞くことができるとともに、自分の意見や感想も明確にしやすいことを確認させる。 ・ 聞くときの注意点は話すときの注意点でもあることに気付かせる。	
	ゴール		